



目次

「ふるさとかるた」..... 1	2010年収蔵品展 火野葦平没後50年..... 5
第6回特別企画展「横山白虹—上衣を肩にして歩く—」 文学講座..... 2	北九州市立文学館開館3周年記念「森鷗外を語る」..... 6
金子兜太さん講演会「白虹さんの思い出」..... 3	対談「自分史を語ろう」..... 7
企画展「筑前のおかみさん 東路をゆく—田辺聖子『綿ざかり花の旅笠』と小田宅子『東路日記』」..... 4	ロビー展示「北九州の川柳を支えた人びと」 親子で楽しむクリスマスコンサート 自分史文学賞受賞作品決定！ 自分史ギャラリー展示替えのお知らせ 交流ステージ・ワークステーション 九州電力「みんなの作文・エッセイ」表彰式..... 8
村田登志江さん講演会「田辺先生の北九州取材に同行して」..... 4	ごあんない..... 8
	資料寄贈者・提供者・受贈雑誌一覧

ふるさとかるた

館長 佐木 隆三

二月二十日、市立小倉城庭園(書院の間)で、「ふるさとかるた お披露目大会」が開かれました。これは、「北九州市にぎわいづくり懇話会」が、市民に郷土愛を深めてもらおうと募集して、全国から四千四百二十句が寄せられ、わたしも審査員の一人として読み句四十五を選んで、三百セットがつくられています。

お披露目かるた大会には、市内の小学生三十三チーム(三人一組)が参加し、一試合十五分の時間制で、午前から午後にかけて団体戦が行われ、ハチマキ姿でスピードを競いました。いやはや大変な盛り上がりで、ずいぶん練習を重ねてきたようです。

わたしは前期高齢者ですから、初めて文字に馴染んだのは、「いろはかるた」でした。犬も歩けば棒に当たる……と、「い」から憶えていったことなどを、あれこれ思い出しました。今回の秀逸は、北九州市の大林千代子さんの「人情が 且過市場の 隠し味」で、俳句や川柳の形式です。ということ、昔の幼児はいろはかるたで、文学作品に出会ったことになりません。

そういえば、「ろ」は北九州市の柴山呂子さんの作品です。

槽山荘 久女多佳子の 句碑いただき

北九州市立文学館は、今年から来年にかけて、橋本多佳子と杉田久女の特別企画展を開催します。お披露目かるた大会で、小学生の皆さんに呼びかけておきました。今年の夏休みには「子どもペンクラブ」がありますから、そちらにも参加してください。

わたしの座右の銘というところ、ちよつとオーパーかもしれません。長編小説の取材に出かけて困難に直面したときなどは、「犬も歩けば棒に当たるんだよ」と、自分を励ますずにはいられません。三つ子の魂百まで……といろはかるたの影響だと思っています。



北九州「ふるさとかるた」(一部)

▲第7回特別企画展 「橋本多佳子」

雪はけし抱かれて
息のつまりしこと」

*開催期間

平成22年4月24日(土)

～7月4日(日)

※月曜日休館

5/3(月・祝)は開館、

5/6(木)は休館

*観覧料

一般 400円、中学生200円、

小学生100円(年間パスポート

は適用されません)

会期中、講演会・HAIKU
ドラマチックコンサート・文学講座を開催します。詳しくは8面をご覧ください。

特別企画展の開催にあわせ、橋本多佳子句集を復刊いたします。



よこやまほっこう うわぎ
第6回特別企画展 「横山白虹—上衣を肩にして歩く—」
 21年10月24日(土)~12月20日(日)

俳句雑誌「自鳴鐘」を創刊主宰し、小倉の地から清新かつ詩性豊かな俳句を発信した俳人・横山白虹。生誕110年を迎えた白虹の作品と生涯を展望する展覧会を開催しました。



資料について説明する学芸員と観覧者



開会式(左から、佐木館長、田中丸善昌さん、寺井谷子さん、古川薫さん、広瀬邦弘さん)

横山白虹(撮影:影浦ようじ)

+++++ 来館者の声 +++++

- ◇俳人のネットワークについても勉強になった。(20代・男性)
- ◇地元の作家の展覧会は、本当に息づかいまで聞こえてきそうです。(30代・女性)
- ◇生い立ちにはじまる人生記録になっていた点が面白く、興味深く感じました。作品が飛び出してくるような、生き生きとしたエネルギーを見せていただきました。(40代・女性)
- ◇俳句とは無縁の私でしたが、白虹先生のお人柄、句がよくわかってよかったです。(50代・女性)
- ◇昭和の大変な時代、生きることの素晴らしさを医業のほかにも指し示して頂いたことを知りました。(60代・女性)
- ◇北九州での活躍等分かりやすく、人脈の広さに驚いた。(70代・女性)
- ◇昔、先生より御指導をいただいた一人です。俳句を通して、先生の偉大な人柄に接し、感動しきりです。(80代・男性)

本展では、白虹の人生に大きな影響を与えた父・健堂の幕末・維新时期を生きた二人の祖父に注目しながら幼少期を振り返りました。その後、俳人・白虹が誕生した青年期を、福岡の俳句雑誌「天の川」での活動や新興俳句運動に焦点を当てて展示。また、主宰誌「自鳴鐘」での活動や作品などを通して、多くの同人や俳人、家族と「共に歩む」姿を紹介しました。

白虹は旧小倉市議会議員や様々な文化団体の代表として、地域文化の発展にも大きく貢献。北九州を愛し、愛されました。激動の時代を軽やかに生き、詠んだ俳人の姿を、自筆資料や書画、遺愛の品などから展望する展覧会となりました。

展示資料 約150点
 入場者 1240人
 (イベント含む)

+++++++
 文学講座
 ++++++

俳人、文学研究者など多彩な講師による、文学講座を開催しました。
 様々な角度から「俳人・白虹」に迫る講義で、参加者の関心を集めました。

- 10月24日(主)
 寺井谷子さん
 「俳人、「自鳴鐘」主宰、横山白虹四女
 「横山白虹というひと」
- 11月7日(主)
 田中丸善昌さん(北九州音楽協会会長)
 「白虹先生と私」
- 11月28日(主)
 井上洋子さん(福岡国際大学教授)
 「横山白虹と「天の川」」
- 12月5日(主)
 岸原清行さん(俳人、「青嶺」主宰)
 「横山白虹の俳句に学ぶ」
- 12月12日(主)
 小林慎也さん(梅光学院大学教授)
 「横山白虹と現代俳句」

受講者 延べ153人



文学講座の様子
 (岸原清行さん)

金子兜太さん講演会 「白虹さんの思い出」

21年11月15日(日)

本展開催を記念して、俳人の金子兜太さんによる講演会を開催しました。生前の白虹と親しく交流された金子さんに、その魅力を語っていただきました。



講演中の金子兜太さん

白虹さんのあとに私が現代俳句協会(会長)を引き継ぎましたから、白虹さんとも随分親し

みました。

この方は一見非常に淡泊で簡単な方のように見えるけれども、

実は非常に複雑な中身を持っておられます。今度また白虹さんのものを読み直させていただきます。その結果、出てきた私の結論のようなものを、ここでご報告させていただきます。(略)

十九世紀、E・B・タイラーという人類学者が現れて、アニミズム(※)は原始に死んでしまったのではなく、むしろ今こそアニミズムを信仰する時代に来ているのではないか、ということを書いています。

白虹さんの句にも、そういったアニミズムの世界があります。アニミズムというものを彼の身体が承知していたと、私は思います。(略)

私の大好きな小林一茶という俳諧師を見ておきますと、「荒凡夫」という言葉を披露しています。「俗」という言い方でもいいでしょう。白虹さんだって、外から見れば俗な生き方というところになるんだらうと思います。社会の中で、日々人間は欲というものをある程度抑え、ある程度伸ばし、苦勞して、生きていく。「荒凡夫」こそ、基本であると思います。「荒」とは荒っぽいということです。自由だと思いうことですが、自由だと思いません。自由で平凡な男の姿、これが人間の生きている姿であると。

しかし同時に、一方で、アニミズムの世界、生き物感覚というものも、大事にされなければ絶対に駄目だと思えます。小林一茶が「荒凡夫」だけでそのまま終わっていたらどうか。彼には清々と清ちるほどの生き物感覚

があった。白虹さんもそうです。私は、白虹さんも「荒凡夫」だと思えます。彼から発せられた句はたくさんありますが、感性に恵まれている。しかも若い頃、それぞれの感性の持つ生き物感覚、感性こそ大事であるということを書いたために、彼は心情そして感情というものを生のまま労働しようと、そういう発言をしている。そう私は受け取りました。やっぱりこの人も、人間として尊ぶべき人間であると。

結局、アニミズムだけでも、俗だけでもだめだと思えます。世の中、一社会で生きているんですから。どちらの面も分かっているなくちゃいけない。それを白虹さんは十分分かっています。

白虹さんは、人を育てるということに、最後まで使命感を抱いていた。そういう素晴らしい俳人でした。森鷗外から始まって、小倉の文化を大成させたというのは白虹さんだと、詩大ではなく思えます。そういうキャラクターだからこそ、大成できている。私は白虹さんを非常に大事に、モデルにしていきたい

と考えております。

(抄)

※アニミズム：全てのものに生命や魂が宿っているという考え方。

北九州芸術劇場小劇場
参加者1197人

金子兜太さんが「第51回毎日芸術賞」を受賞されました。心よりお慶び申し上げます。

参加者の声

◇生き物感覚について、個々に命を感じるアニミズムに共感を覚えた。俳句の原点であり、いつの時代にも通じるものだと思った。(50代・男性)

◇人を見つめるやさしさと、人柄を見抜く的確さにひかれました。(60代・女性)

◇先生の若さ、聡明さに驚きました。温かい白虹氏への評価は大変聞きやすかったです。(70代・女性)

◇現在は全く詠んでおりませんが、俳句との出会いが自然生活の大切さを教えてくれました。また始めてみようと思えます。(70代・女性)

作家・田辺聖子さんの小説「姥ざかり花の旅笠」を足がかりに、江戸末期の商家の女性・小田宅子が残した旅日記「東路日記」と、同時期の筑前地方の女性たちによる文芸活動を紹介する企画展です。

「東路日記」は、福岡の国文学者・前田淑さんによって発見・翻刻されました。前田さんの論文や永井路子さんの著書などを通じて紹介されてきましたが、



小田宅子 肖像(北九州市立自然史・歴史博物館寄託)

田辺聖子さんが「姥ざかり花の旅笠」として本格的に小説化することで、より多くの人々に知られるところとなりました。

▲企画展

「筑前のおかみさん 東路をゆく」
—田辺聖子「姥ざかり花の旅笠」と小田宅子「東路日記」—

1月9日(土)～4月11日(日)



会場風景

終えた五十三歳。地元の国学者・伊藤常足のもとで古典や和歌を学び、その成果が和歌と散文で綴った「東路日記」となって結実しました。

本展では、「東路日記」原本や宅子自筆の短冊などを展示するほか、田辺さんの「姥ざかり花の旅笠」自筆原稿や執筆当時の資料も特別に展示しています。

あわせて、宅子とともに、伊藤常足に学び、同様の旅日記や歌集を残した同時期の筑前地方の女性たちについてもご紹介します。

現代女性にもつながる行動力に溢れた江戸時代の女性たちの姿と、彼女たちが花開かせた豊穡な

時は水野忠邦による天保の改革末期の一八四二年。筑前国遠賀郡底井野(現・中間市)の両替商「小松屋」のおかみであった宅子は、歌仲間の久子たちと連れだつて、念願の伊勢詣の旅へと出発します。

当初は伊勢までの予定の旅でしたが、宅子たちは好奇心のおもむくままに大坂、京、善光寺、日光、江戸へと到ります。当時、宅子は家業や子育てを

文芸世界をご覧いただけます。ちなみに宅子は、俳優・高倉健さんの五代前の先祖にあたります。



「東路日記」決定稿本(公立大学法人福岡女子大学附属図書館蔵)

展示資料Ⅱ約50点

▲村田登志江さん講演会
「田辺先生の北九州取材に同行して」

3月6日(土)

講師の村田さんは、昭和五十三年に出版社集英社に入社。その直後から田辺聖子さんを担当され、以降、信頼厚い編集者として活躍中です。

今回の講演では、北九州とゆかりの深い作品「姥ざかり花の旅笠」—小田宅子の「東路日記」と「花衣ぬぐやまつわる……」わが愛の杉田久女」を中心に、田辺さんとの取材旅行の思い出を、様々なエピソードを織り交ぜ、お話くださいました。

「姥ざかり花の旅笠」の誕生は、「東路日記」現代語訳の執筆者を探していた村田さんが、田辺さんに相談したことがきっかけ。話を聞いた田辺さんは、わずか二日間で「東路日記」を読破

翌月には「東路日記」取材ノートと題された熱気溢れるノートを完成させて、村田さんを驚かせたそうです。五十代過ぎでの冒険旅行、旅先での買い物物の様子などから、すっかり宅子に

共感した田辺さんは、小説化を決意。その後、「姥ざかり花の旅笠」というインパクトの強いタイトルとともに、宅子と彼女の旅を世に広く知らしめることになりました。

また俳人・杉田久女が亡くなった太宰府の病院での取材や久女を直接知る俳人・横山白虹との対面などについて、語ってくださいました。

田辺さんの身近にある村田さんだからこそ知る貴重なお話の数々に、熱心にメモを取る参加者の姿が多く見られました。

参加者Ⅱ7名



講演中の村田登志江さん

▲二〇一〇年収蔵品展

火野葦平没後五〇年

1月9日(土)～4月11日(日)



展示の品々

今年の収蔵品展は、火野葦平没後五十年を記念し、文学館収蔵の関連資料を紹介しています。河童を好んだ火野は、河童の絵を多く書き残しています。「河伯十夢」と題のある屏風は、十枚の短冊にさまざまな河童が描かれ、詩も添えられたユーモアあふれる作品です。火野の文学仲間であった劉寒吉の書斎に置かれていました。火野が健康状態を記していた日記帳「ヘルスメモ」の最後のページには、「死にます。芥川龍之介



展示資料約50点

ヘルスメモについて説明する学芸員と観覧者

とはちがふかも知れないが、或る漠然とした不安のために。すみません。おゆるし下さい。さやうなら。」と記されています。自死前夜の遺筆となりました。このほか自筆原稿や書簡、著書などを展示しています。なお、九月十一日から十月十一日までの収蔵品展でも、同内容の展示を行う予定です。

終戦の日の 寄せ書きを初公開

火野葦平ほか、旧陸軍西部軍報道部メンバーが終戦の日の昭和二十年八月十五日に書いたとみられる寄せ書き(個人蔵)を初公開しています。火野は「命」を詠み込んだ短歌十五首を記しています。

「君ありてすつる命を生きてみつ草莽布衣の心かなしき」「われひとりあらんかぎりは賊うつといひし丈夫の命思ほゆ」など、一兵卒として終戦を迎えた心情がうかがえます。これまで火野が終戦の日に書いたものは見つかっておらず、火野研究において重要な資料です。北九州ゆかりの岩下俊作や東清も終戦時の心境を詩にして記しています。



火野葦平自筆の短歌「命十五首」

向井潤吉作品の 寄贈を受ける

火野葦平長男の玉井闌志氏より、向井潤吉の油絵「ロクタク湖白雨」などの資料をご寄贈いただき展示しています。同作品は、向井が火野とともに従軍したインパール作戦を描いたもの。40号の大作で、本人たちの姿も描きこまれています。向井が火野に贈り、東京の火野邸「鈍魚庵」に飾られていました。



「ロクタク湖白雨」を前に玉井氏と寄贈を受ける佐木館長

火野葦平没後50年 主な記念事業

主催：火野葦平没後50年記念事業実行委員会、北九州市

- 資料展「葦平と縁の人々」
～12/26 火野葦平資料館(若松市民会館内)
- 読書感想文コンクール 募集期間：1/24～5月上旬
- 葦平時画集展 4/2～18 若松市民会館
- 記念文化講演会 6/20 若松市民会館
一部：出久根達郎(直木賞作家)
二部：中村哲(パシヤワール会代表)
- 記念写真展 6/13～20
若松市民会館、わかちく史料館、旧古河鉱業若松ビル
- 記念音楽会 9/5 若松市民会館
オペラ「カルメン」上演

そのほかにも

- 映画上映会
 - シンポジウム
 - 葦平ウォーク
- などのイベントが予定されています。

お問い合わせ

火野葦平没後50年記念事業実行委員会事務局(若松市民会館内)
TEL. 093-771-8131

▲北九州市立文学館
開館3周年記念

「森鷗外を語る」

ベアーテ・ヴォンデ

× 伊藤比呂美

21年11月28日(月・祝)

第1部 石井郁男さん講演会

北九州森鷗外記念会理事の石井郁男さんに「森鷗外と『戦争論』」「小倉左遷人事の真相」と題し、「講演いただきました。」

鷗外の小倉赴任に関し、従来左遷人事説を大胆に否定。日露戦争を控えた軍部が、臨戦態勢にある軍部・小倉でクラウゼ



講演中の石井郁男さん



対談中の伊藤比呂美さん(左)、ベアーテ・ヴォンデさん(中)、司会進行の今川副館長
写真提供:毎日新聞社

ヴィッツ「戦論」(「戦争論」)の翻訳を任せたのが真相、との持説を展開されました。
研究の成果は「森鷗外と『戦争論』(芙蓉書房)のご著書にまとめられています。

第2部 対談

ベアーテ・ヴォンデ・伊藤比呂美

ベルリン森鷗外記念館副館長のベアーテ・ヴォンデさんと、詩人の伊藤比呂美さんに、「森鷗外の女性観」をテーマにお話いただきました。

「夫婦は離れて暮らした方がいい

い」「名作「雁」は面白いかな?」など、気になる内容は――。

伊藤 私がよく好きな鷗外作品に「ぢいさんはあきん」があります。「山椒大夫」の安寿、それから「最後の一句」のいち、と……

今川 「お上の事には間違はございませぬから!」私も、中学生のころに読んで本当に感動しました。

伊藤 そう、ほんとに気丈な女の子。幼い自分でさえ、「この女は強いな」と思うわけです。安寿だって、弟のために身を投げ出して、男よりずっと強い。「ぢいさんはあきん」を読むと、ばあさんのるんは

教養があるし、あまり美人ではないけど、賢くて、目から鼻へ抜けるようで、大出世するんですよ。夫の伊織は、なかなか佳い男で教養もあるけど、失敗して遠くに流されてしまふような、ある意味、だらしない男です。それをるんがよく助ける。るん自身がとても強い、自立した女です。

今川 今で言うならキャリアのある女。どうして、鷗外はこういう女を書き続けるんでしょう。どれを見ても、女はみんな強いんです。

今川 ベアーテさんはいかがでしょう?

Beate 「ぢいさんはあきん」は面白いです。三十数年ぶりに再会した二人は、「隔てのない中に礼儀があつて、夫婦としては、少し遠慮をし過ぎてゐる」。つまり、距離がある。夫婦が互いに正しい距離を保とうとする姿は、鷗外の考え方をよく表しています。

伊藤 「亭主元気で留守がいい」? Beate そうそう。(笑)歌舞伎座の舞台では、二人の座布団の間、として表現されていた。夫婦は距離のある方がいい。あまり近いのはよくないです。

〜中略〜

今川 鷗外の女性を主人公とした作品ではやはり「雁」が有名だと思えますが、いかがですか?

Beate 私、遠慮します。外国人として、「雁」の魅力は全然分かりませんから。

(会場よりよめき)

お玉さんは、ただ見るばかり。とても退屈です。ヨーロッパ人の感覚では全然分かりません。伊藤 ああ、それは私も「分かんなかったなあ」というのは残っています。小さい頃ね。

Beate 日本人が大好きだというの、知ってますけど。何回読んでも、ちよつと。

今川 「雁」はベアーテさんには「論外」だそうです。(笑)

Beate ただ見るだけ、つてどういう関係性なんでしょう。(笑)実際に相手へ近づくと、ではなく、自分の頭の中のイメージだけに好意を寄せています。自己満足のような感じです。

北九州市長表敬

11月24日(火)

講演会翌日、ベアーテさんが北橋健治北九州市長を表敬しました。北九州市とは十年來の交流が続くベアーテさん。ベルリン森鷗外記念館とのさらなる連携を話し合いました。



北橋市長(右列の左から2人目)と対談中のベアーテさん

▲対談

「自分史を語ろう」

9月27日(日)
1月24日(日)

佐木館長が、北九州市で活躍するゲストの「自分史」に迫る連続企画。今期は、北九州郷土史の重鎮・今村元市さんと、若き劇作家・泊篤志さんをお迎えしました。



今村元市さん

【第11回】9月27日(日)
お話し 今村元市さん

小倉と門司、二つの郷土会会長として活躍される今

村さんは、高校で教鞭を取った後、小倉市立記念図書館(現・北九州市立中央図書館)に長年勤務。郷土資料のエキスパートとして、松本清張はじめ数々の作家の取材にも協力してこられました。

軍隊時代の特異な経験など、自分史ならではのエピソード満載。米寿を迎えたという今村さんの博覧強記に、佐木館長はじめ参加者の皆さんも感心しきりでした。

参加者124名

【第12回】1月24日(日)

お話し 泊篤志さん



泊篤志さん

演出家として

全国的に活動されています。

対談では、演劇嫌いだっただ高校生の頃のエピソードや、なぜ大企業を棒に振って北九州へ戻ったのか、などのやりとり会場が沸きました。長崎市の依頼で泊さんが書いた戯曲「The Passion of Nagasaki」を、佐木館長は「北九州人として誇りに思う」。感動的な場面となりました。

参加者140名

▲ロビー展示

「北九州の川柳を支えた人びと」

主催・北九州川柳作家連盟
1月20日(水)～2月28日(日)

北九州の川柳界に貢献した作家と作品を紹介。古くは明治時代から、昭和の終わり頃ま

で活躍した作家の色紙や短冊六十四点を展示しました。

▲親子で楽しむ

クリスマスコンサート

12月13日(日)

クリスマスの季節に、親子で参加できるコンサートを開催しました。響ホール室内合奏団の皆さんによる「赤鼻のトナカイ」「きよしこの夜」などの演奏があり、仲紀子さん(ブック・ネットワーク北九州代表)にはクリスマス絵本の紹介をしていただきました。

参加者152名



素敵な演奏とお話しのコラボレーション

▲自分史文学賞

受賞作品決定!

第二十回(平成二十一年度)

北九州市自分史文学賞は、平成二十一年七月一日から九月三十日まで作品を募集し、全国および海外より三九八編の応募がありました。

一月十五日、最終審査会が行われ、宗像哲夫さん「滝桜に会えたから」が大賞を受賞。佳作に竹中祐典さん「師風」、陳秉璋さん「徒然草」と出会って、北九州市特別賞には審亮さん「A遺伝子の光芒」が決定しました。

▲自分史ギャラリー

展示替えのお知らせ

4月24日(土)～
平成23年4月10日(日) (予定)

北九州市自分史文学賞の受賞作品を紹介するコーナーを展示替えします。取り上げる作品は、火野葦平没後五十年に因んで、第十回(平成二十一年度)に大賞を受賞した玉井史太郎さん作「河伯洞余滴」です。作家火野葦平の三男として生まれ、父の重圧から逃れようとした半生を描いています。火野の写真などを交え、作品のあらすじや抜粋を紹介します。



「河伯洞余滴」単行本

▲交流ステージ
ワークステーション

九州電力

「みんなの作文・エッセイ」表彰式

12月6日(金)

「夢」をテーマに作文募集した「第8回みんなの作文・エッセイ」(九州電力主催)表彰式が行われました。

途中、受賞者の中学生によるギターを使ったミニ演奏会も行われました。その腕前に参加者から大きな拍手が沸き、受賞したみなさんにとって思い出深い一日になりました。



マイクを向けられてドキドキ



「あんなに

▲第7回特別企画展

「橋本多佳子

雷はけし扱かれて
息のつまりしこと」

▲文学講座

全5回の文学講座を開催します。

▲第1回

4月24日(主) 11時~12時30分
橋本美代子さん(俳人「七曜」主宰)

▲第2回

5月22日(主) 13時~14時30分
寺井谷子さん(俳人「百穂圃」主宰)

▲第3回

6月5日(主) 13時~14時30分
久保田裕子さん(福岡県立大学准教授)

▲第4回

6月19日(主) 13時~14時30分
野中亮介さん(俳人「花邊」主宰)

▲第5回

6月26日(主) 13時~14時30分
阿部誠文さん(俳人「近代文学研習会

*会場 北九州市立文学館1階

交流ステージ

*受講料 2000円

(全5回) 資料代含む

*定員 50名(抽選)

*お申し込み方法 往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記のうえ北九州市立文学館までお送りください(平成22年4月15日締切 当日消印有効)

▲坪内稔典さん講演会

「橋本多佳子の
もたらしたもの」

毎日新聞「季節のたより」でおなじみの俳人・坪内稔典さんによる記念講演会を行います。

*日時 平成22年5月21日(金)
13時30分~15時

*会場 北九州芸術劇場 小劇場

*無料

*定員 200名(抽選)

*お申し込み方法 往復はがきに参加希望人数(4名まで)・(全員の)住所・氏名・電話番号を明記のうえ、北九州市立文学館までお送りください(平成22年5月10日締切 当日消印有効)

▲「船団の会」主催 句会ライブ

坪内稔典さんが代表を務める「船団の会」がライブで句会を行います。どなたでも気軽にどうぞ。
*日時 平成22年5月22日(土)
10時30分~12時

*会場 北九州市立文学館交流ステージ

*定員 100名

(随時参加可、要予約)

投句1句(雑歌、10時半締め切り)

コメンテーター・あさ香子、寺井谷子

火箱遊歩 司会・坪内稔典

▲HARKUDRAMATEIツク

コンサート

橋本多佳子の俳句をもとにし

たオリジナルストーリーを三

輪純子さん(スピーチセラピスト)が朗読。関原弘二さん(響ホール室内合奏団)のチェロ演奏とコラポレリーションします。

*日時 平成22年5月8日(土)
14時~15時30分

*会場 北九州芸術劇場 小劇場

*無料

*定員 150名(抽選)

*お申し込み方法 往復はがきに参加希望人数(4名まで)・(全員の)住所・氏名・電話番号を明記のうえ、北九州市立文学館までお送りください(平成22年4月30日締切 当日消印有効)

▲夏休み企画展

「みずかみかずよ展(仮)」

詩人・児童文学作家みずかみかずよ(北九州市八幡東区出身)の53年のあゆみとともに、その作品を紹介します。
*開催期間 平成22年7月17日(土)~8月31日(火)

*会場 北九州市立文学館

*定員 100名

*観覧料 無料

*お問い合わせ 093-571-1506

*開催期間 平成22年10月23日(土)~12月12日(日)

*観覧料 無料

*お問い合わせ 093-571-1506

*開催期間 平成22年10月23日(土)~12月12日(日)

*観覧料 無料

*お問い合わせ 093-571-1506

◎資料寄贈者・提供者

受贈贈誌一覽 平成22年3月現在

寄贈者・提供者 秋吉久紀

夫 麻生久 新井俊夫 有

森信二 安間隆次 石川篤

敏 伊藤比呂美 今村元市

入江蒼行 枝元八重子 大沼

遊魚 折世凡橋 上坂高生

かこしま近代文学館 北九州

文学協会 岸原清行 木村

公子 群馬県立土屋文明記

念文学館 高知県立文学館

河野正彦 光畑浩治 神戸

大学山口響子学術振興基金実

行委員会 小嶋洋子 小林

秀一郎 佐藤幸乃 垂石重成

柴田良一 下野恵助 鈴木厚

子 鈴木孝一 仙台文学館

玉井蘭志 寺井谷子 泊篤

志 中山美保 日本近代文

学館 能村研三 波佐間義

之 橋本美代子 花田理枝

林美美子の会 平出隆 深川

竜汰 福岡市文学館 福岡

百合子 藤本政雄 古谷龍

太郎 Beate Wonde 松野町

立芝不器園記念館 三浦尚司

水上平吉 三股節子 武藤

幸子 村水美和子 柳生じゆ

ん子 矢宮慶夫 餘戸雅一

受贈雑誌

蓋 青嶺 穴生

文芸 あん 色鳥 海沖

海峽航 牙 九大日文 群

炎 玄海 沙漠 自鳴鐘

周英 川柳あやめ 川柳く

ろがね 川柳むらさき たむ

たむ 小さい旗 伝書鳩

天鏡通信 とびうお 葉殼

火 虹野 俳句界 橋耳

空 (五十音順・敬称略)



北九州市立文学館 発行 2010年4月1日 北九州市立文学館 〒803-0815 北九州市小倉北区城内4-1 TEL 093-571-1506 http://www.city.kitakyushu.jp